

授業科目名 <英訳>	日本史III Japanese history III		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志 人文科学研究所 准教授 岩城 卓二 人文科学研究所 准教授 高階 絵里加			
群	人文・社会科学系科目群	系列	歴史・文明系(基礎論・日本)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2015・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>							
日本の近世から近代への移行期、いわゆる明治維新について、歴史学研究は豊富な蓄積をもつ。明治維新といえ、政治史への関心が高いが、この変革期で人々は何を経験し、また社会のあり方や人間の生き方がどのように変わったのかが知られる史料が豊富に残されているという点では、同じく社会変革の時代であった戦国から江戸時代への移行期の比ではない。そこで本授業では、市井の人々や社会の側から、明治維新の意味を考える。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の最も大きな変革期であった明治維新の考察から、変革の時代の日本が直面しうるさまざまな問題について理解する。</li> <li>・人々の生活や社会の側から明治維新の意味を考えることを通じて、社会変革をとらえる能力・視点の獲得をめざす。</li> </ul>							
<b>【授業計画と内容】</b>							
3人の講師が明治維新に関連するそれぞれのテーマで各4～5回の講義を行う。							
<p>1. テーマ テロと戦争 担当：岩城卓二 幕末期の京都はテロが横行し、治安は悪化していた。また、禁門の変は、250年ぶりの市街戦であった。長く「平和」な時代を生きた人々は、テロと戦争をどのように観察していたのか。手紙・日記から社会変革の時代を生きた人々の心情に迫る。</p> <p>2. テーマ 明治維新と天皇と京都 担当：高木博志 1869年の東京遷都を契機とした天皇のあり方の変化や、近代における京都イメージの形成や歴史都市としての歩みを考える。</p> <p>3. テーマ 美術と明治維新 担当：高階絵里加 明治前期、初めて本格的な西洋芸術の概念や技法にであい、大きく変化した日本の美術について、絵画を中心にスライドで具体的な作品を見ながら考える。</p>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>							
定期試験 各テーマ1題、計3題を出し、そのうち2問を選択して解答。 持ち込みは不可。							
<b>【教科書】</b>							
授業中に指示する							
----- 日本史III(2)へ続く -----							

日本史Ⅲ(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

[その他(オフィスアワー等)]

受講人数は100人を上限とする。